

## 「卒業前に振り返る、ニュージーランドで得たもの」

高橋 結衣菜

私は高校2年生の春、3月から11月までの7か月間、交換留学生としてニュージーランド(NZ)に留学させていただきました。出国する日は少し不安もありましたが、それ以上に期待の気持ちの方が大きかったです。

実際にNZの空港に着くと、温かく、そして優しく迎え入れてくれたことを今でもよく覚えています。最初は、ホストファミリーや学校での会話がとても速く感じられ、ほとんど何も聞き取ることができませんでした。そこで私は、自ら英語を学ぶために、日常会話に加えて、1日に一度ホストマザーと英語を勉強する時間を設けました。特に、自分が分からなかった表現を「言えるようになる」ことを意識し、どのような言い回しがあるのか、より自然な言い方は何かなどを質問しながら、多くのことに挑戦しました。また、途中から他の国の留学生も一緒に住むことになり、交流がさらに深まりました。積極的にkiwiの子たちにも話しかけることで、自然と仲良くなることができましたと思います。

留学を通して私が強く感じたのは、日本にいると当たり前だと思っていたことが、海外では通用しない場合もあるということです。例えば、日本の気遣いが、時には相手にとって迷惑に感じられることもありました。一方で、遠回しに言わず、期待を持たせない伝え方や、良い意味での自由さには大きな魅力を感じました。海外で生活すると、日本と比べてしまい、良いと感じる点や疑問に思う点、そして直したほうがよいのではないかと感じる点の両方が見えてきます。しかし、どちらにも良い点・悪い点があると感じたからこそ、私自身は今後、取り入れたいと思った部分を見習っていきたいと思います。

留学に行かせてもらい、そして留学を決断することができたことで、少し大げさかもしれませんが、人生が大きく変わったと感じています。1年生の頃は将来の進路が決まりつつあったものの、心の中では「本当にこれでいいのだろうか」と迷っていました。NZでの7か月間の留学生活を通して、自分が本当に学びたいこと、将来につなげたいことが、より明確になりました。他の国で異文化を経験し、親元を離れて生活することで、これまで知らなかったことに気づくことができました。また、さまざまな視点から物事を見る力が身についたと感じています。

このような素晴らしい機会のある高校で、充実した時間を過ごすことができ、とても良かったです。

